



たけにし あこ
竹西亜古

生徒指導実践開発コース教授

集団の輪に入りにくい
児童生徒の
指導法を教えてください

児童生徒の関係性や集団適応性を適切に見極めるには、「一人でいられる力」という観点も重要です。現在、小学5年生を対象にネットワーク調査を行っています。その中で、恒常的に一人でいる子どもが存在します。

一見、集団の輪に入れない子なのですが、何をしていたかを聞くと「本を読んでいた」「絵を描いていた」などと答えます。中には「誘われたけど断った」という回答も。これらの児童はやりたいことに優先順位をつけ、自主的・自立的に行動を選択する力を持っています。

一方、一人でいられない児童も多数見受けられます。これらの児童は、つながること自体に力を注いでいるようです。表面的には集団になじんで良好

な関係性を保っているように見えても、つながることを最優先するがゆえに自分を持ってなくなっているとも考えられます。

一人でいられる力は自主性・自律性の現れであるため、この力を持つ子は必要に応じて人とつながることもできます。学校教育だけで育つものではありませんが、教員の働き掛けも重要です。

まずは教員自身が「つながることが良くて、一人でいることはいけない」という浅薄な価値観を捨てることです。つまり、今回のような質問を発しない教員になることです。

次に、本当の意味での集団、すなわち「生み出す機能を備えた集団」で子どもにもその機能を実感させることです。つながること自体ではなく、つながることによって仲間と成し遂げられる快感を体験させてください。そのためには目標設定が重要です。学級の全員が関心を持ち、一人残らず一心に達成したいものである必要があります。日常的な学級目標では難しいかもしれませんが、行事や特別活動を有効に利用しながら、教員それぞれに得意分野で力量を発揮してください。



キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

附属中学3年生の蟬川泰果君
日本ジュニアゴルフで2位タイに



附属中学3年生の蟬川泰果君が、「2015年度(第21回)日本ジュニアゴルフ選手権競技」男子12歳~14歳の部(埼玉県霞ヶ関カンツリー倶楽部:8月19日~21日開催)で2位タイに輝いた。同選手権競技は、日本ゴルフ協会が

催すジュニアゴルファーの日本一決定戦で、過去には名プレイヤーを輩出している。蟬川君は「体を鍛えて、来年度は優勝できるよう頑張りたい」と受賞の喜びを述べた。

修士課程の笹本しずかさんが
「2015県展」奨励賞受賞

8月、「2015県展」において、修士課程文化表現系教育コース(美術)2年生の笹本しずかさんが絵画部門で奨励賞(公益財団法人伊藤文化財団賞)を受賞。表彰式は8月22日に行われた。受賞作品について、笹本さんは「光がもたらす温かさや、懐かしさ、切なさを思いながら、色彩と余白との関係を考えて制作しました」とその思いを語った。



「記憶色」
透明水彩・水彩鉛筆
130cm×162cm

学部の岡崎紗佑美さんが
「第65回西宮市展」市長賞受賞



「corrosion」
アクリル画
162cm×162cm

7月、「第65回西宮市展」において、芸術系(美術)コース4年生の岡崎紗佑美さんが最高賞である市長賞を受賞した。受賞について、岡崎さんは「今回の作品では、将来への期待や不安などを表現しました。いろいろな方の支えがあって今回の賞を頂くことができました。今後も制作に励みたいと思います」と語った。